

医学系研究科看護学専攻博士後期課程										学位授与方針(ディプロマ・ポリシー(DP)) (◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)				
NO	時間割 コード	授業科目	履修学 年	通年	前期	後期	担当教員	授業の目的(概要)	科目の達成目標(達成度)	1	2	3	4	5
										国内外の文献 分析や保健・医 療機関等での フィールドワー クを通して、超 高齢看護学の 構築に資する 研究課題を展 望できる。	フィールドのケア 対象者や実践者、異 分野の研究者等と 連携・協働して超高 齢看護学の理論体 系化に資する水準 の研究を自立て る構築に資する 企画・立案、遂行で きる研究マネジメ ント能力が培われて いる。	超高齢看護学と しての学術的意 義、新規性、創 造性、応用的価 値を有する博士 論文を作成でき る。	博士論文の研究 成果を国内外の 看護学会等で発 表し、発信する ために必要な プレゼンテー ション力、英語 力が身について いる。	博士後期課程修 後のキャリア・ビ ジョンとして、 大学等の教育 研究機関及び 保健・医療の 現場で、看護 学の教育・研究 をリードしてい くことを明確に 描いている。
1		超高齢看護開発特講	1		2		原 祥子他	現在、日本は世界最長寿命国であるとともに、後期高齢者の急激な増加という、世界的に前例のない超高齢社会を迎えている。この超高齢社会における人々の生活にわたる健康と尊厳ある生活・療養を支援するために、地域特性や多様なコミュニティの特性に応じた様々な健康課題を包括的に捉え、新たな看護ケア方法の開発や理論開発による健康課題解決の可能性を追究する。	1)国内外の研究・実践の動向を多角的に分析し、超高齢社会における顕在的及び潜在的な健康課題を自己の研究疑問に引き付けて整理する。 2)国内外の論文クリティークを通して、超高齢社会における人々の健康課題解決に向けた研究開発の方向性を見極め、自己の研究課題を見出す。	○	○			
2		安全ケアシステム開発特講	1		2		津本 優子他	超高齢社会を支える包括ケアのネットワークにおいて、ケアの質・安全を保障する観点から、ケアサービス提供にかかる課題を探究する。超高齢社会における様々な健康課題に対して、保健医療福祉看護関連の制度政策の提案も視野に入れて、安全で質の高いケアを組織的・系統的に提供するためのケア提供方法や人材育成・活用、包括ケアにおける安全システムの開発とリーダーシップ、包括ケアにおけるケア情報システムの開発等々、ケアの質・安全と社会システムとの関係を多角的に探索し、超高齢社会を支える安全ケアシステムの開発や理論開発の方向性を見出す。	1)超高齢社会のケアを包括的に支援するシステム構築の必要と意義、開発上の課題を明らかにする。 2)超高齢社会のケア包括支援システム構築における、看護情報システム導入・活用の在り方、開発の方向性と課題を明らかにする。 3)安全ケアシステムを基盤としたケア包括支援システム構築のあり方と課題、効果的な運用について検討する。 4)上記をとおして、超高齢社会における安全ケアシステム開発上の研究課題を探索する。	○	○			
3		研究方法特講	1		2		橋本 龍樹他	博士前期課程で学習した研究方法を踏まえたうえで、博士後期課程において超高齢看護学特別研究を行うために必要な研究アプローチについて、看護学に限らず、文化人類学・医学・生物学などで用いられる研究方法を幅広く学習する。また、英語の論文を作成するために必要な基本的ルールと技術を学ぶ。	講義では、質的研究であるGrounded theory, Ethnography Research、現象学、解釈学を取り上げ、自らの研究領域の研究の概観を探求する。また、主に量的な研究方法をとる医学的研究方法(精神・心理学、生化学、形態学、細胞生物学、分子生物学、生理学、薬理学)や、アクションリサーチについても解説する。本科目を修得することで、学生の研究に医学・社会学的な視点を入れることができ、学際的な研究を進めることができるようになる。併せて英語論文を読む能力と作成する方法を修得する。	○	○			
4		超高齢看護学研究演習	1		2		原 祥子他	自己的研究的関心に即した多様なフィールドワークと文献の多角的分析をとおして、人々の生活の場で生成する健康課題との関連から自己の研究課題に取り組むことの意義を明確にし、超高齢社会における様々な健康課題の解決に貢献し得る、新たな看護ケア方法や看護実践モデル・理論の開発並びに健康長寿を支える新たなケアシステムの開発を目指した研究アプローチを追究する。	1)参加型看護研究及び行動モデルとその適用について理解できる。 2)フィールドワークと文献の多角的分析をとおして、人々の生活の場で生成する健康課題を確認し、超高齢看護学にかかると健康課題を明確にすることができる。 3)フィールドワークの成果とプロセスをまとめて、適切に発表できる。 4)超高齢看護学にかかると健康課題と自己的研究的関心を融合させ、超高齢看護学の構築に寄与し得る研究課題を焦点化することができる。 5)自己の研究課題に対応した研究デザインを定め、適切な倫理的配慮のうえで研究を遂行するための方法、分析方法を探索し、論理的・一貫性のある研究計画を検討できる。	○	○			
5		超高齢看護学特別研究	1		6		原 祥子他	超高齢社会における看護の質の向上並びに新たなケアシステムの開発を目指した研究活動を展開し、博士論文を作成する。	1)特講・超高齢看護学研究演習の進行及び成果と連結させながら、超高齢社会における人々の健康課題解決に有用な研究計画を立案する。 2)研究計画に沿って研究活動を展開できる。 3)分析結果の妥当性を検証し、博士論文を作成する。	◎	◎	◎	◎	◎

医学系研究科看護学専攻博士後期課程										学位授与方針(ディプロマ・ポリシー(DP)) (◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)				
NO	時間割 コード	授業科目	履修学 年	通年	前期	後期	担当教員	授業の目的(概要)	科目の達成目標(達成度)	1	2	3	4	5
6		地域がん治療学	1			2	調整中	地域がん治療学においては、地域に多い高齢者ががん診療に精通し、地域連携を推進し、地域貢献のマインドを有する全人的ながん診療の専門家を育成する。がんの診療の基本であるがんの診断、機能評価、患者コミュニケーション、治療適応の判断、緩和ケア、包括的な患者マネジメントについて学び、切れ目のないがん医療を医師、看護師、薬剤師、メディカルソーシャルワーカーなど多職種によるチームオンコロジーの構築と展開について習得することを目標とする。また、プログラムはがん治療認定医機構ならびに日本臨床腫瘍学会のカリキュラムに準じて横断的、段階的に作成されており、本コースを履修することでがん治療に関する認定医、専門医などの資格試験に求められる知識を確保することが可能となる。	1)がん診療の実践に必要な臨床的知識を獲得する。 2)がん診療において必要とされる包括的なマネジメントについて理解する。 3)がん治療認定医機構の認定医ならびに日本臨床腫瘍学会認定のがん薬物療法専門医資格試験の受験に必要なレベルに到達する。 4)地域がん診療に必要な地域医療学、病診連携について学ぶ。	○	○			
7		がん医療社会学	1			2	調整中	がん医療社会学においては、地域に多い高齢者や合併症を有する患者のがん治療学として、最適ながん医療が提供できる医療従事者を育成する。がん患者がその居住する地域にかかわらず、科学的知見に基づく適切ながん医療を受けることができるようにすること、がん患者が置かれている状況に応じ、本人の意向を十分尊重して治療方法等が選択されるという、がん対策基本法の基本理念を理解し、患者のQOL(生活の質)や副作用対策についての臨床研究、医療費に関するがん医療社会学、地域での終末期医療や緩和医療学に関して学ぶ。がん診療における「対話」の重要性を理解し、地域医療における多職種によるチーム医療の重要性と実際を学ぶ。	一般目標 general instructional objectives 地域に多いunfit populationと呼ばれる、高齢者や合併症を有するがん患者に対して、診断、病状説明、最適な治療について対話ができる医療従事者を育成することを目標とする。 行動目標 specific behavioral objectives 1)がん患者のQOL(生活の質)について理解する。 2)各臓器別のがん腫について診断、治療戦略を学ぶ。 3)高齢者や合併症を有するがん患者への対応を学ぶ。 4)がん診療におけるチーム医療について学ぶ。 5)がん診療における対話の重要性を理解する。	○	○			
8		緩和ケア学	1			2	齊藤 洋司他	生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族を正しく理解し、早期より痛みや、身体的、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を包括的に評価し、アプローチするための理論と方法について学習する。 がんがもたらす身体症状の病態・発現メカニズムを理解し、薬物的・非薬物的アプローチを適切に活用しながら、症状を緩和するケアを提供する能力を高める。 精神的苦悩のアセスメントと介入方法、コミュニケーション方法を学び、精神的苦悩を緩和するための技法を学ぶ。	一般目標 general instructional objectives 1)がん医療における緩和ケアの意義、役割を理解する。 2)全人的痛みの評価、緩和を学ぶ。 3)がんの痛みの特徴と治療を学ぶ。 行動目標 specific behavioral objectives 1)緩和ケアの意義を説明できる。 2)早期からの緩和ケアを行うことができる。 3)全人的痛みを4側面から評価できる。 4)がんの痛みの機序を説明できる。 5)非がん患者の緩和ケアの適応について説明できる。 6)精神的痛みの特徴と緩和について説明できる。 7)スピリチュアルな痛みの特徴と緩和について説明できる。 8)緩和的放射線治療の特徴について説明できる。	○	○			
9		環境医学 I	1			2	定金 敦子他	主体と環境との相互作用という観点から、様々な健康問題、疾病の原因究明とその予防に取り組む研究について学習する。研究の方法は「人間レベル」を中心に、生活環境や社会文化環境を含め、人の取り巻く環境と医学医療との関連を検討する。様々な環境で起こる問題を解決するためには、歴史的背景を学習し、そこから得られた技術や経験を理解するとともに、社会集団として国際的あるいは社会的なルール・制度・仕組みを把握することも重要である。問題解決とリスク低減のために、マクロ的視野および環境共生の枠組みに立った展開ができることを学習の狙いとする。環境医学 I では総論的内容を主とし、概念や枠組み、社会制度等の理解を重視する。	一般目標 general instructional objectives 1)環境と健康の関連性からとらえる研究テーマを開発する。 2)生活習慣・生活習慣の健康への影響を評価する方法論を理解する。 3)労働環境の実際的な応用研究を理解する。 行動目標 specific behavioral objectives 1)疫学研究について説明できる。 2)生活環境と健康リスクについて説明できる。 3)働くことと健康について理解できる。	○	○			

医学系研究科看護学専攻博士後期課程										学位授与方針(ディプロマ・ポリシー(DP)) (◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)				
NO	時間割 コード	授業科目	履修学 年	通年	前期	後期	担当教員	授業の目的(概要)	科目の達成目標(達成度)	1	2	3	4	5
										国内外の文献 分析や保健・医 療機関等での フィールドワー クを通して、超 高齢看護学の 構築に資する 研究課題を展 望できる。	フィールドのケア 対象者や実践者、異 分野の研究者等と 連携・協働して超高 齢看護学の理論体 系化に資する水準 の研究を自立して 企画・立案、遂行で きる研究マネジメ ント能力が培われて いる。	超高齢看護学と しての学術的意 義、新規性、創 造性、応用的価 値を有する博士 論文を作成でき る。	博士論文の研究 成果を国内外の 看護学会等で発表 し、発信するため に必要なプレゼン テーション力、英語 力が身につけてい る。	博士後期課程修了 後のキャリア・ビジョ ンとして、大学等の 教育研究機関及び 保健・医療 の現場で、看護学の 教育・研究をリードし ていくことを明確に 描けている。
10		環境医学Ⅱ	1			2	定金 敦子他	人間の健康に関わる諸問題を“生涯を通じての健康”を目指した健康教育の理念や方法論を確立していくことが求められる。また健康に関わる諸事項について周辺領域を含めて学際的知識と実践技術を体系的に習得し、現代生活に潜む健康課題に対する問題解決能力を養うことを学習する。環境医学Ⅱでは各論的な内容を主とし、各課題に対して周辺関連領域の知識を含めた、深く掘り下げた理解と議論を展開する。	一般目標 general instructional objectives 1) 自然・生活・社会環境と健康との関連を理解する。 2) 環境と健康との関連を歴史的、文化的な文脈contextから理解する。 3) 健康を支援する環境づくりや環境に順応した人間行動を理解する。 4) 健康課題に対応する人類生態学、政策科学の概念と方法を理解する。 行動目標 specific behavioral objectives 1) 自然・生活・社会環境と健康との関連を列記することができる。 2) 環境と健康との関連を歴史的、文化的な文脈contextから例示することができる。 3) 健康を支援する環境づくりの要件を述べることができる。 4) 地球環境問題における環境に順応した人間行動を例示することができる。 5) 人類生態学、政策科学の概念と方法の特徴を述べることができる。	○	○			
11		医学・医療情報学Ⅰ	1			2	津本 周作他	医学・医療情報学とは、情報学の手法を広く取り入れて、基礎・臨床医学および医療に役立てることを目的とした学問である。本講義では、現在、情報学・統計学ではどのような先端的な研究がなされているかという基礎的な知識を与え、情報学・統計学の基本を習得させるとともに、それが今後どのように医療分野へ展開していくかということを展望させることを目的としている。	一般目標 general instructional objectives 1) 医療情報システムについての基礎知識を学ぶ。 2) 情報セキュリティの基礎知識を学ぶ。 3) 情報学の最近の研究について学ぶ。 4) EBMの基礎技術である統計学について学ぶ。 行動目標 specific behavioral objectives 1) 病院情報システムの基本的な構成について説明できる。 2) インターネット上でのセキュリティについての基本的考え方を説明できる。 3) 病院安全に要求される情報通信技術の基礎について説明できる。 4) 情報学の基本的な考え方を説明できる。 5) 統計学の手法を使って、データ解析できる。	○	○			
12		総合診療・地域医療学	1			2	佐野 千晶	近接性(患者の生活の場の身近で行われる)、包括性(患者ならびに家族の環境にも考慮し、患者の抱えるような問題にも対応する)、継続性(問題発生時のみならず、予防段階から関与する)、協調性(専門医をはじめとする医療従事者と協働する)、責任性(説明責任と医療従事者の生涯教育を保障する)により特徴づけられるプライマリ・ケアについて学ぶ。また、島根県のみならず我が国、海外の地域医療の現状と課題を理解するとともに、グローバルな視点で地域医療を捉え、地域住民の健康を守るための方策について自ら考えるための応用力を養う。	① プライマリ・ケアの必要性と現状・課題について説明できる。 ② 島根県ならびに国内外における地域医療の現状とその問題点について説明できる。 ③ 病診連携、病病連携、多職種連携のチーム医療について説明できる。 ④ 地域ニーズの高い総合診療、救急医療、感染症といった分野の課題について説明できる。 ⑤ 地域における疾病予防、健康増進の取り組みについて説明できる。 ⑥ 地域包括ケアについて説明出来る。	○	○			

医学系研究科看護学専攻博士後期課程										学位授与方針(ディプロマ・ポリシー(DP)) (◎=DP達成のために、特に重要な事項 ○=DP達成のために、重要な事項 △=DP達成のために、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)				
NO	時間割 コード	授業科目	履修学 年	通年	前期	後期	担当教員	授業の目的(概要)	科目の達成目標(達成度)	1	2	3	4	5
										国内外の文献分析や保健・医療機関等でのフィールドワークを通して、超高齢看護学の構築に資する研究課題を展覧できる。	フィールドのケア対象者や実践者、異分野の研究者等と連携・協働して超高齢看護学の理論体系化に資する水準の研究を自立的に企画・立案、遂行できる研究マネジメント能力が培われている。	超高齢看護学としての学術的意義、新規性、創造性、応用的価値を有する博士論文を作成できる。	博士論文の研究成果を国内外の看護学会等で発表し、発信するために必要なプレゼンテーション力、英語力が身につけている。	博士後期課程修了後のキャリア・ビジョンとして、大学等の教育研究機関及び保健・医療の現場で、看護学の教育・研究をリードしていくことを明確に描けている。
13		臨床医学と社会・環境医学への高度情報学・数学の応用	1			2	長井 篤他	高度情報学に関する人間および環境との係わり、それらの研究の動向などについて、情報工学の基礎から現代社会での活用事例まで、講義・セミナー等において学ぶ。さらにその医学への応用については医学情報の持つ基礎的性格を理解し、がんを含む生活習慣病の遺伝学や疫学的研究方法を学ぶ。また、臨床現場で活用されている疫学や臨床検査学の研究方法、医療サービス設計などを理解する。基礎知識から臨床応用への発展を段階的に理解できるようにオムニバス形式の講義・セミナーで学ぶ。	一般目標 general instructional objectives 1) 情報技術の現状と展望について理解できる。 2) 情報と環境との係わりを理解できる。 3) 異分野の研究者が共同でプロジェクトを行う際の注意点を理解できる。 4) 医学情報の個人情報保護、疫学的な特徴、医療サービス設計への応用を理解できる。 5) 医学情報からのデータマイニングの方法を理解できる。 6) 医学情報を用いたがんを含む生活習慣病の遺伝学、臨床検査学への応用を理解できる。 行動目標 specific behavioral objectives 1) 利用者から捉えた最近の情報処理技術の動向について理解できる。 2) 情報との係わりの上で環境問題の現状について概説できる。 3) 医学者と工学者の特徴を説明できる。 4) 医学情報の個人情報保護、疫学的な特徴、医療サービス設計への応用を説明できる。 5) 医学情報からのデータマイニングの方法を説明できる。 6) 医学情報を用いたがんを含む生活習慣病の遺伝学、臨床検査学への応用を概説できる。		○			
14		知的財産と社会連携	1			2	選考中	知的財産に関する基礎および応用知識を講義・セミナー・実習等において習得し、さらにがん医療や次世代看護福祉などの高度医療における知的財産権を理解し、医工連携および看工農連携の研究事例や産学連携による新産業創出についての特論をオムニバス形式で学ぶ。知的財産について学んだ事柄を遂行できる力を培い、将来、産学連携による共同研究等を実施できる能力を養う。医療・看護の質向上に資する知的財産教育を実践し、専門的な知的財産権を活用して社会貢献できる人材を養成する。	一般目標 general instructional objectives 1) 知的財産および知的財産権の概要を理解する。 2) 医療領域における知的財産権の概要を理解する。 3) 医・理工農連携および看工農連携の研究事例について理解を深める。 4) 産学連携による新技術創出の状況を把握する。 5) 産学連携を社会連携の視点から理解する。 行動目標 specific behavioral objectives 1) 知的財産権の創造・保護・活用を説明できる。 2) 医療分野における知的財産権の重要性を説明できる。 3) 医・理工農連携および看工農連携による研究開発にあたり知的財産権を理解し行動することができる。 4) 医・理工農連携および看工農連携による実用化の事例を説明できる。 5) 研究・開発のマネージメントを説明できる。		○			
15		機能性物質・食品の医療応用と環境影響	1			2	和田 孝一郎他	医療材料の開発とそれに伴う医療技術の進歩は、医療全般の向上に大きく貢献してきた。本科目では、医学専門家の立場からは、実際に医学に応用され医療の向上に貢献している機能性物質・食品について説明する。特に、生体の恒常性の維持に必須なシステムである免疫系、内分泌系、消化器系に焦点を当て、それらの基本的な作用機序・特性などを医学的・臨床的な視点から概説する。また、理工農学専門家の立場からは、生体内において多彩な機能を発揮する物質の開発や設計、化学物質としての環境への影響について、さらに、機能性食品としての市場性などについて概説する。	一般目標 general instructional objectives 1) 生理的条件下での機能性物質の特性を理解する。 2) 栄養分や薬剤として有効な物質の効果を理解する。 3) 生体内での機能性物質の作用を説明できる。 行動目標 specific behavioral objectives 1) 新規機能性物質の開発・設計・合成の手法および生体内での機能について理解する。 2) アレルギー疾患制御、免疫賦活などの生命現象に関与する化合物を説明できる。 機能性食品について理解する。 3) がん治療への機能性物質の適用を説明できる。 4) 栄養分輸送の媒体である水、基本的栄養素であるミネラル(微量無機元素)の生体内での機能を理解する。 5) 環境における機能性物質の特性と挙動、および環境への影響を理解する。 6) 健康維持の中心的役割を果たしている消化管への機能性物質の影響を理解する。 7) 内分泌かく乱物質の性質と生体への影響を理解する。		○			